

発熱

子どもの平熱は37.0℃前後です。
37.5℃以上で微熱、38.0℃以上で発熱と考えると良いですよ。

観察

- ・機嫌は？元気は？
- ・呼吸は普通？
- ・食欲は？
- ・皮膚の色は？
- ・意識ははっきりしていますか？
- ・おしっこは出ますか？

手当

- ・水分補給を十分に
- ・発汗や皮膚紅潮があるときは冷やす
- ・熱の上がりかけで寒がっているときは、暖める
- ・子どもが嫌がることを無理強いしない
- ・解熱剤は、元気がないようなら使ってください
→日頃から、かかりつけ医に使い方を確かめておきましょう

→元気がよければ様子を見て大丈夫

こんな時は、受診を

- 生後6ヶ月以内
- 起こしても、うとうとして、意識がはっきりしない
- 半日以上もおしっこが出ていない



けいれん

子どもに起こるけいれんの特徴

- 「熱性けいれん」・・・38℃以上の発熱。左右同じ全身けいれん
- 「泣き入りひきつけ」・・・痛みや怒りなどで激しく泣いたときに脳が興奮して起きる
呼吸が突然一時的に止まり、顔やくちびるが紫色になることがある
- 「てんかんによるけいれん発作」・・・発熱のない時のけいれんが繰り返される

観察

- ・けいれんですか？
- ・悪寒戦慄（ふるえ）ではないですか？
- ・意識は？
- ・呼びかけに、反応しますか？
- ・時計をみて！
・・・けいれん発作の継続時間を計りましょう

手当

- ・2～3分で治まるので、あわてずに！
- ・体を揺さぶらない、ほほを叩かない
- ・静かに横向きに寝かせる
- ・呼吸しやすいように衣服をゆるめる
- ・口にものを入れない

<おさまったら記録しておきましょう>

- *熱は何℃でしたか？
- *何をしていたときに起きましたか？
- *けいれんは何分間で止まりましたか？
- *手足は左右同じ動きでしたか？
- *けいれんの様子は？
「ぴ～ん？」「がくがく？」

こんな時は、急いで受診を

- 10分以上続く
- 意識が戻らない。元気がなく、ぐったりしている
- 短時間に繰り返す
- 全身でなく、部分的なけいれん

→おさまって、意識がしっかりしてきて、元気が出れば様子を見ていいです



腹痛

観察

- ・便秘は？下痢は？
- ・痛みの場所は？
- ・痛みはいつもありますか？
- ・痛みが時々治まりますか？
- ・顔色は？元気は？

→下腹部痛の時は、
睾丸(こうがん)の観察を

手当

- ・便秘の時には、
・トイレに行ってみる
・排便がなければ洗腸を
- ・下痢の時には
・おなかを休めて消化のよいものを
・水分はしっかりとる
(塩分糖分のあるイオン水)

こんな時は、受診を

- 右下腹部に、ずっと続く痛みがあり、だんだん強くなっている
→急性虫垂炎(盲腸)かもしれません
- 下腹部痛があり、睾丸が紫っぽく腫れている
→精巣捻転症かもしれません →急いで受診を
- 便に血液が混じっている

心配ですね
いつもと違うところはどこですか？



パンフレットで確認してみて、
心配なら受診しましょう

嘔吐・下痢

機嫌が良く、食欲もあり元気なら心配ありません

観察

- ・便の様子はどうか？
・・・回数、におい、性状(血便、水様便、粘血便、白色便)など
- ・おしっこの回数は少なくないですか？
- ・発熱、顔色、元気さ、皮膚や口の渇きぐあい、発疹などはどうか？

手当

- ・吐いたものが気管に入らないように、体は横向きに
- ・水分を少量ずつ様子を見ながら与える(牛乳は避ける、母乳はよい)
- ・水分補給を十分に
- ・吐いたもの、便の片づけには注意して、しっかり手洗いを

こんな時は、受診を

- 泣いても涙が出ない
- 目が落ちくぼんでいる
- 皮膚、口、舌が乾燥している
- 皮膚が冷たく、白っぽい
- 呼吸が速く、眠りがち。機嫌が悪い
- 1日に6回以上、大量の水様下痢
- 便に血液が混じっている(血便)
- 嘔吐が長引いている
- 緑色の嘔吐がある



せき、喘鳴(ぜんめい)

せきは、気道の痰や、ひっかかったものを出す防御作用のこともありますが、喘鳴(ぜんめい)の時は、受診が必要です。せきや呼吸の様子をよく観察しましょう。

観察

- ・呼吸は？
「ぜいぜい」「ひゅうひゅう」
ではないですか？
- ・横になれていますか？
- ・呼吸数、息づかい、爪の色、顔色はどうか？

手当

- ・体を起こして楽な姿勢に
- ・十分に水分の補給を
- ・室温の急激な変化を避け、乾燥に気をつける

こんな時は、急いで受診を

- 急に起きて息苦しそう変な咳をする
- 息を吸うとき、首の付け根がへこむ
- 横になれず体を起こしている
- 息切れしてよく飲めない
- 時々呼吸が止まり、爪の色や顔色が紫色

ここが吸気時に
凹まないか
みます



異物誤飲

異物の誤飲は、2歳以下が大半です
17時から20時の子どもから目の離れやすい時間帯が要注意

○タバコ→食べた量の観察！

- ・半分以下、2センチ以下なら・・・放置可
- ・それ以上、不明な場合は・・・病院へ

○心配な誤飲・・・吐かせたらいけない!!

- ・灯油、ベンジン、シンナーなどの揮発性の物
- ・漂白剤・強い酸・アルカリ

○処置の不要な物

- ・体温計の水銀、石けん、シリカゲル、マッチ、シャボン液
- ・クレヨン、インク、墨、化粧水、絵の具、線香

こんな時は、急いで受診を

- タバコの灰皿の汁を飲んだ
- 大人の薬を飲んだ
- ボタン電池やコインを飲んだ
- 咳き込みが止まらない
- 「心配な誤飲」(上記)の場合

酸 アルカリ



気道異物

子どもは、何でも口に持っていきます。
のどに異物が詰まったら、急いで手当を!
(救急車では、間に合わないことも!)

詰まった異物を吐き出させるときは・・・

- 乳児では、うつぶせにし、あごをあげ、気道を開きやすくして、頭を下げ背中をたたく
- 幼児では、抱きかかえ、頭を低くして背中をたたく